

2022年6月14日

報道各位

入間小のケヤキを
未来につなぐ会

市議会に陳情を提出

— 概要 —

- ✓ 狭山市議会議長宛てに「入間小学校跡地のケヤキの保存に向けた措置について」陳情書
- ✓ 市議会に対して狭山市への働きかけや必要な措置を求める内容

入間小のケヤキを未来につなぐ会は6月14日、**狭山市議会太田博希議長宛てに陳情書「入間小学校跡地のケヤキの保存に向けた措置について」を提出**しました。詳しくは別紙をご覧ください。陳情は議会運営委員会で協議後、原則、**定例会最終日（21日）に全議員に配付**されます。



この件に関する
お問い合わせ先

電話 050-3635-1920（代表 福住）

Eメール keyakinomirai1920@gmail.com

WEB サイトニュースページ (<https://keyakinomirai.com/newsroom/>) はこちら ▶



陳情書

1. 件名 入間小学校跡地のケヤキの保存に向けた措置について

2. 陳情の趣旨

要旨 狭山市に下記の事項の実行を促し、狭山市議会からも必要な措置を講じて頂きますようお願い致します。

- (1) 入間小学校跡地のケヤキの伐根処分を中止すること。
- (2) 入間小学校跡地のケヤキの現位置での保存・活用に向けて、狭山市がイオンリテール株式会社と協議を開始すること。

理由 入間小学校跡地のケヤキ（以下、ケヤキ）は入曽の地域史をまとめた書物にも度々取り上げられており、常に入曽の歴史の中心で親しまれてきました。大木で整った樹形であるこのケヤキが毎年青々と葉を茂らせる様子はまちのランドマークとなり、これまでの歴史と併せて、これからも入曽のまちづくりに大切な要素です。ケヤキの現位置での保存は入間小学校の閉校以来多くの市民が要望しており、入曽駅周辺整備事業のパブリックコメントでも要望が複数寄せられるなど、入間小学校跡地利活用事業（以下、本事業）において最優先で検討すべき課題です。

狭山市（以下、市）は複合商業施設の誘致に不利になるという観点以外に保存可能性の検討を十分に行った形跡がありません。複合商業施設公募時の質問ではむしろ保存・活用したい旨を表明した事業者が複数あり、必ずしも誘致の不利にはならないことが判明しました。したがって、ケヤキが現位置で保存できない理由はなくなっています。

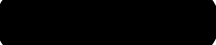
市はケヤキの移植検討や後継木の育成など市民の要望に配慮する姿勢も見せていますが、これらの策は歴史あるケヤキの大木を現位置に残す意義を代替できるものではありません。

事業者として選定されたイオンリテール株式会社（以下、イオン）はグループ内の店舗で積極的な樹木保存や活用を行っており、中には立地自

治体の委託を受けて地域住民のためにほぼ自己負担で管理している施設（イオンモール東久留米）もあるなど、先に挙げた市民の要望を実現するための十分な技術と体制を有しています。本事業においてイオンは市の募集条件に縛られており、ケヤキの現位置での保存・活用の実現には、まず市からイオンに協議を申し出る必要があります。

上記の通り、陳情いたします。

令和4年6月14日

陳情者 狭山市 

入間小のケヤキを未来につなぐ会

代表 福住勇矢 印

（宛先）狭山市議会議長 太田博希 様

添付資料

WEB フォームからイオンに問い合わせた

そよら入曽のケヤキに関する回答メール

Subject: イオンへの Web 問い合わせ【No-XXXXXXXXXX】

From: cs_aeon@aeonpeople.biz

Date: 2022/05/25 17:21

To: XXXXXXXXXX

フクズミ ユウヤ さま

この度は、新規店舗につきましてお申し出をいただき、誠にありがとうございます。早速、担当部署にお申し出になられた内容を伝えました。

「この度は、新規店舗に関するご意見をいただき、ありがとうございます。お返事が遅くなり申し訳ございません。お客さまからいただいたご意見ご要望の件数についてのお問い合わせでございますが、開示はいたしておりません。大変恐れ入りますが、ご理解いただければと存じます。今回の新規店舗計画地に関しましては、狭山市より、ケヤキの移植は難しく、移植しても根付く保証はできないことから、樹木自体は伐採するという事前説明を受けております。伐採後の木材を使った加工品の作成等により、地域に貢献できるご提案をすることを前提とし、事業者募集に参加いたしました。また、狭山市から弊社に対し、樹木を残すことについて申し入れはございませんでした。地域の皆さまからのお申出は存じ上げておりますが、樹木についてはお答えできる立場ではないと考えております。ご了承いただきますようお願い申し上げます。なお、今後ケヤキに関するご意見・お問い合わせにつきましては、狭山市へお申し出いただきますようお願いいたします。新規店舗が、より良い店舗になるよう、取り組んでまいります。イオンリテール株式会社 開発部 野上 』

これからも、イオングループをご利用くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

イオン お客様サービス部 メール担当：前田・樋口

※このメールに返信される際は、下記の部分を変更あるいは削除せずに返信してください。

XXXXXXXXXX】

※下線やマーカーは「入間小のケヤキを未来につなぐ会」で追加したもの。下線部は、「フクズミ」以外の他の人への回答にも共通している部分。個人情報や問い合わせメールの識別番号は黒塗りで伏せた。

添付資料

入曽駅周辺整備事業基本計画案に関するパブリックコメントの結果

1 パブリックコメントの実施概要

(1) 目的

入曽駅周辺整備事業基本計画（案）について、市民等から幅広い意見を募集するため

(2) 閲覧期間・意見募集期間

平成30年2月13日（火）から平成30年3月9日（金）

(3) 意見提出の対象者

- ・市内在住・在勤・在学の方、市内に事務所・事業所を有する方
- ・狭山市税の納税義務者、基本計画（案）に関する利害関係者

(4) 公表した資料

入曽駅周辺整備事業基本計画（案）

2 意見の提出状況

(1) 意見提出者数 62名

狭山市HP専用フォーム 25名、持参 15名、電子メール 11名
FAX 8名、郵送 3名

(2) 意見者の関係

市内在住 58名（内入曽地区53名）、市内在勤 1名、市内に事業所 2名、
入曽駅周辺整備事業基本計画（案）に関する利害関係者 1名

3 寄せられたご意見と市の考え方（別紙参照）

意見数	204件
東西自由通路・橋上駅舎に関するもの	46
駅前広場・道路に関するもの	57
入間小学校の跡地利用に関するもの	43
その他	58

※お寄せいただいた意見は原文のままの記載を基本とし、特定の事業所・店舗名等の固有名称は添付図に表記する等、表現をかえています。

（なお、匿名の意見は受付しておりません）

※添付していただいた、図については図中の文字のみを意見として表記しています。

計画へのご意見と市の考え方

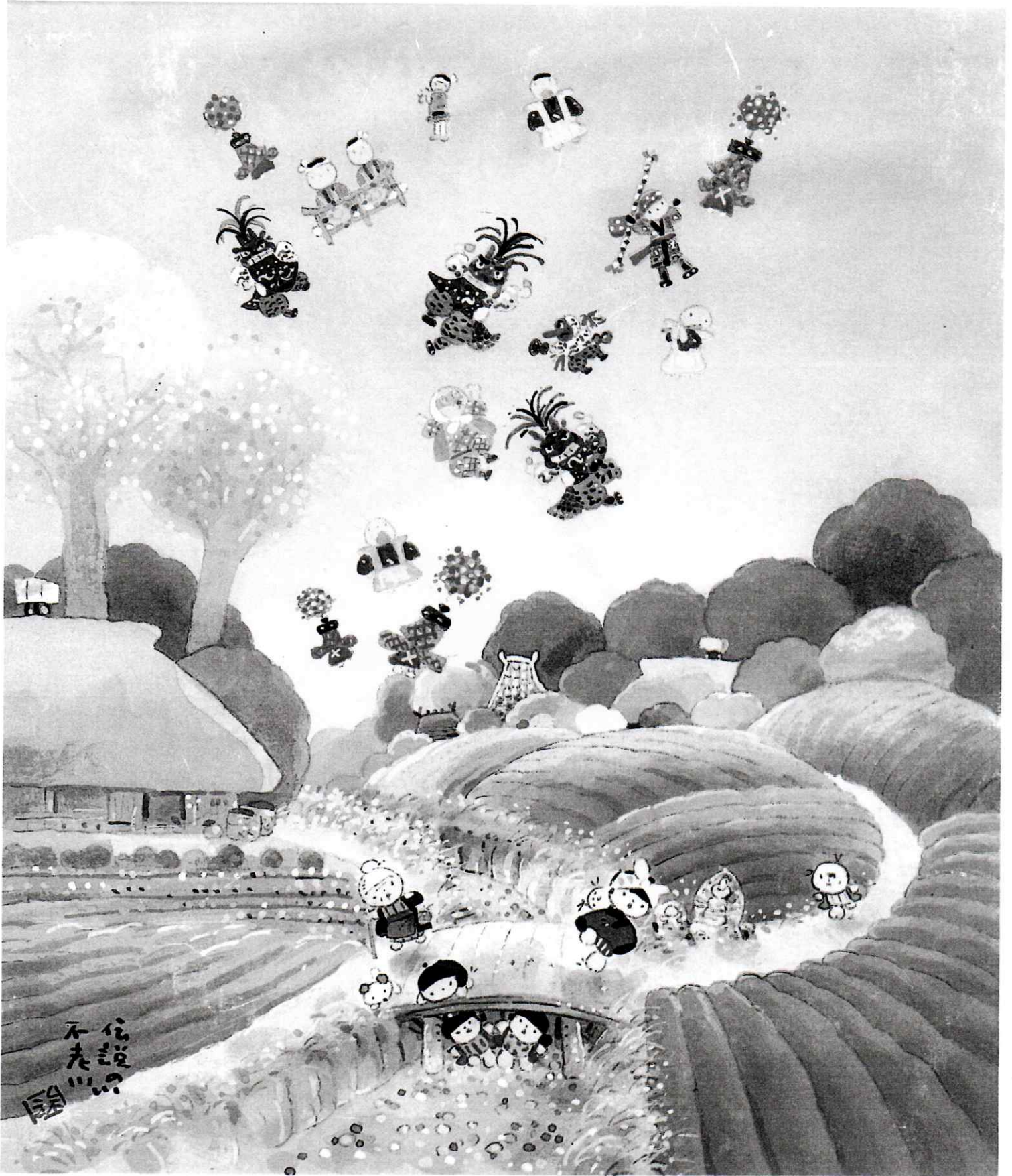
分類	寄せられたご意見	意見に対する市の考え方
小学校跡地利用 7	<p>具体的要望 ・入曽地区活性化とコミュニティの拠点作り 入曽地区、特に駅周辺の活性化を目標とした整備事業には多くの地域住民が集散するコミュニティの拠点作りが不可欠。お金を使う商業施設の新設だけでは、平均所得順位がそれほど高くない住民にとってそれほどの人の集散は期待できないでしょう。住民が求めているのは住民の多用化したライフパターンに役立ちなお、人と人が自然に触れ合い、生きがいをもって安全に生活できる生活環境ではないでしょうか。役所の皆さんも仕事を離れ一人、一住民として考えてください。子供さんがいらっしやれば、子ども達の将来ことを考えるでしょう。人並、いや人並以上に教育をつけ安定した仕事に就き健康でいて欲しい。グローバル化した世界に役立つ仕事をして欲しいと考える方もおられるでしょう。また、リタイヤしたご両親のことを心配される方も、健康維持のため、何か仕事でもすればいいのに、しかし、この町には高齢者対象の仕事が少なく、趣味にでも生きがいを見つけてくれればと考える方も少なくありません。 子供に英会話を習わせたい、やっと思つた新しい友人とたまに一杯、と思つても全て全てお金がかかります。これだけ国際化が一般的になった日本もこの町は鎖国状態近い現状です。 高齢化進行し、医療費の増大で健康保険もバンク状態、いろいろな分野で活躍してきた住民も宝の持ち腐れ状態。 これらの高齢者の方々を活用し、住民に喜ばれる安価で利用できるコミュニケーション促進事業、将来を担ってくれる子ども達の社会教育など、市民による市民のためのボランティア事業の実現のため、廃校になった入間中学校の再利用を提案しております。 公民館が旧入間小学校のグラウンドに移設されます。これまで以上に住民に役立つ機能を完備されることと存じます。しかし、住民の求める日常生活に不可欠なコミュニケーション促進機能は十分に果たせないと思います。 小学校跡地の新しい商業施設、わずか200メートル離れた中学校跡地の公民館、そして安価に利用できる住民による住民のための様々なコミュニティ施設。これらがコラボレートしはじめて入曽地区のコミュニティ拠点となり、問題を掲げる駅正面の街路及びその南側地区整備の糸口となると思います。 ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。</p>	<p>公共施設の整備につきましては、市では将来のまちづくりを見据えて公共施設等の適正な配置を図っていくため、改修・建替え・統廃合などを計画的に進めており、そうした中で現在のところ、入間小学校跡地に新たに公共施設を作る計画はありません。本事業において入間小学校跡地については民間事業者を公募し、参画希望があった事業者に対しプロポーザル方式等による審査を行っていくことを予定しており、ご提案いただいた内容については民間事業者の募集・選定の際の参考にさせていただきます。また、入間中学校跡地には公共施設として入曽地区地域交流施設(仮称)等の整備を予定しており、ご意見の中の入間中学校跡地の利活用に対するご提案については、まちづくりを行う上で参考にさせていただきます。</p>
	<p>・この計画図に公共施設が一つもないのはなぜか。公共施設はコミュニティーのシンボルであり、人と人の交流の場である。ここに公共施設を置かない理由が明確でないのは納得できない。</p>	<p>公共施設の整備につきましては、市では将来のまちづくりを見据えて公共施設等の適正な配置を図っていくため、改修・建替え・統廃合などを計画的に進めており、そうした中で現在のところ、入間小学校跡地に新たに公共施設を作る計画はありません。</p>
	<p>・狭山市都市計画マスタープランにある「商業機能等の整備・充実」とは小学校跡地に「商業系企業の誘致」だけで現在の駅前市道沿い商店街について触れられていません。本計画立案に当たって駅周辺事業者の意見・要望をどう集約し検討したのかお示しください。</p>	<p>駅周辺で商店を経営している方の意見につきましては、それぞれの商店が加入している自治会を対象とした説明会等において、商店経営者からは、本事業に対して賛成と反対、双方の意見が寄せられましたが、概ね、本事業に賛成する意見等を多くいただきました。いただいたご意見は、内容を検討し、必要なものについては詳細な計画を作成する上で、参考にさせていただきます。</p>
	<p>・民間活力を活用した「公募型プロポーザル」で入間小学校跡地の利活用を進めるとあります。民間活力の主体は市内の企業を優先しているのでしょうか。また、説明ではスーパーマーケット業態からの出店希望があるとのことでしたが、狭山市総合計画(地域経済活動の特性を踏まえた地域拠点と市街地形成/商業・業務地の拡充)との関係ではどのような施設を想定しているのでしょうか。</p>	<p>民間事業者の募集については市内外問わず募集を行う予定であります。また誘致を行う施設は出店希望が多かった複合型の商業施設を想定しており、狭山市総合計画にも即したものと考えております。</p>
小学校跡地のケヤキの木 1	<p>意見 ケヤキに広い広い居場所を残してください。 1ページ 入間小に現在ある大ケヤキを切らないでください、移植もしないでください。踏切2近くの「スーパーマーケット1」にある、みじめな姿の大イチョウと併せて樹が根や枝を伸ばすための十分以上のスペースを樹に与えてください。樹はそこを通る人、見る人に安らぎを与えてくれるはずですよ。 入間川駅西口再開発では入間川小学校に有った大樹は切られ、狭いところに移植され最後は切られたものがほとんどだった様に思われます。近くにあった大イチョウも切られてしまいました。建設の邪魔になるなら計画を変えれば良いのです。計画前に樹はあったのですから。移植は樹を大切にしているふりをしているだけで、樹のためになにも良いことはありません。 たかだか百年しか生きない人間の都合で何百年も生き、これからも生きていく樹の居場所を変えるのは、人間本位の行動であり、心の豊かさを感じられません。樹は大切にすべきだと思います。意図的に樹を残して、百年後千年後の子孫に伝えたいと思います。</p> <p>入間小学校がなくなってしまったことは、非常に寂しい。入間小のシンボル「けやき」を保存し、「文具店1」側から駅前ロータリーにつなぐ</p> <p>説明会で質問のあった入間小跡地の「ケヤキ」は、移植の計画をしているとの回答でしたが、移設したらすぐ枯れるでしょう。現在の場所にもそのまま残し、その周囲を休憩場所にするなどの工夫をした方が、費用もかからず良いと思います。</p>	<p>小学校跡地に現存するケヤキの木は現位置に存置した場合、有効な土地利用が図れないことが予測できますが、取扱いについては調査・研究しております。</p>

計画へのご意見と市の考え方

分類	寄せられたご意見	意見に対する市の考え方
ケヤキ校跡地 2	<p>「3. 土地利用計画図(案)」について(3ページ)道路の安全に関する項目 図中6)について ○旧入間小のシンボルのケヤキを残すべきである ・計画図案では永く旧入間小のシンボルとして親しまれてきたケヤキの木が位置付けられていないが、どう活かすのか計画にも明記すべきである。</p> <p>入間小学校校庭のケヤキの木ですが、移設しなおかつ巧いかなかったらその子孫を残すように計画しているとの説明を聞きました。私も昭和28年に一年生から見てきましたが、今となってはその学校もなく特段の思いもありません。学校を壊す時もいろいろ意見があったけど当時の方は皆さん高齢化し、今更ケヤキの木を見ても癒されることは少ないと思います。移設費用、これからの管理費、開発の妨げ等を考えると、思い切つて伐採してもいいと思います。そのケヤキの木がのちに入管地区のシンボリックになるとは思えませんので、住民の方のアンケートに具体的な費用等を示してその可否を決定しても遅くないと思います。</p>	(同上)
駅周辺の活性化	<p>民間活力を生かすことは大切であるが、駅周辺の活性化には、安全に歩ける道路をつくる必要があり、さらに、きれいで魅力的な街の環境を整える様々な取り組みをすることが不可欠であり、今回の提案内容で駅周辺の活性化が図られるのか。</p> <p>今回の提案について、将来への道筋についてなど、周辺で営業されている方との協議がされているのか。</p> <p>駅前商店はここ数年で大きく減少したことに伴い、以前は多くみられた自転車道まではみ出す姿はみられなくなりました。入間小跡地に民間施設誘致を図ったとしても改札が移動してしまえば駅前という立地を失った正面通りのテナントが撤退し更に衰退してしまうのではないのでしょうか。</p> <p>・橋上駅舎ができ現駅舎が廃止された場合、この駅舎から現駅舎まで及び現駅舎から区画道路まで、どのようにして人の流れを作ろうとしているのか。</p>	<p>駅周辺の活性化につきましては、本事業の整備により駅周辺の回遊性を促進するとともに、小学校跡地に新たな機能を導入することにより、駅周辺の活性化が期待できると考えております。</p> <p>駅周辺で商店を営んでいる方の意見につきましては、それぞれの商店が加入している自治会を対象とした説明会等において、商店経営者からは、本事業に対して賛成と反対、双方の意見が寄せられました。概ね、本事業に賛成する意見等を多くいただきました。いただいたご意見は、内容を検討し、必要なものについては詳細な計画を作成する上で、参考にさせていただきます。</p> <p>東西自由通路やアクセス道路の整備及び複合型商業施設の立地により、駅周辺の回遊性を促進し、このことにより商店街に対しても相乗効果が期待できると考えております。</p> <p>人の動線が変わることにつきましては、東西自由通路やアクセス道路の整備及び複合型商業施設の立地により、駅周辺の回遊性の促進が期待できると考えております。</p>
雨水処理	<p>小学校跡地の調整池は地下構造ですね。点線矢印だけが取り入れ口ではありませんよね</p>	<p>いただきました内容は平成25年度に策定した入間小学校跡地利用計画についてのご意見かと思われませんが、本計画による入間小学校跡地の雨水処理については、進出する民間事業者が整備することから、雨水処理施設の構造については、県条例に基づき進出する事業者が計画することになります。なお、平成25年度策定の入間小学校跡地利用計画は、本計画の策定にあわせて計画を置き換えます。</p>
その他 1	<p>東口、西口の名称を北口、南口に変更していただきたい。 昨年、初めて入管駅を降りる人と待ち合わせした際、東と西を間違えタイムロスしてしまっ。一般的に判り易い、北口、南口に変更すべきだと思います。ご検討ください。</p> <p>入管駅周辺の整備の意見の募集について、広報さやまにて見ました 整備や開発等には関係のない意見になってしまうのですが、自分は「入管」という地名に対して、発音なのかどうかはわかりませんが、良いイメージも悪いイメージもないのですが、悪く言えば「ただの場所」というような感じがしてしまいます。 そこで、狭山市ではなく、西武鉄道側の問題になってしまうのですが、せめて駅名を変えた方が良いと思います。 住所は問題ないのですが、駅名自体が良いイメージがないと、そこに詳しくない人にまで「何もない、行こうとは思わない」というようになってしまおうと思います。 自分としては、西狭山駅 もしくは 水野駅 が思い浮かんだのですが、せめて入管という名前だけは変えた方が良くと思います 一個人の開発や整備に何も関係のない意見ですが、読んで頂ければ幸いです。 長文、失礼致しました。</p>	<p>入管駅の東西出入口の名称については、長きにわたり地域の皆様に使用され、十分馴染んでいるものと思われるため、出入口名を変更することは考えておりません。</p> <p>入管駅の名称については、長きにわたり地域の皆様に使用され、十分馴染んでいるものと思われるため、駅名を変更することは考えておりません。</p>

添付資料

入間川の水遊び



信濃
不老山
園

狭山市入間地区郷土愛護会

二十四、小学校櫓のひとりごと

明治六年（一八七三）北入曾村田口保明家に入曾学校が創立開校され、水野村には逃水学校が入曾学校の分校として金剛院内に開校された。北入曾村入曾学校は翌年常泉寺に移転した。明治一八年常泉寺が火災のため焼失、入曾学校は下新田の持田歌五郎家に移転し、其の後南入曾村金剛院に移り明治二十二年（一八八九）初代村長に関口文吉就任と共に明治六年（一八八六）の小学校令による入曾小学校は人間尋常小学校と改称される。其の後人間尋常小学校として現在地に校舎を建築、明治三十三年（一九〇〇）村をあげての新校舎落成記念式典が挙行された。その時大変な出来事が起きた。桜の花の校舎落成記念にと山王様より記念樹として校庭まん中に山桜の大樹を移植し村民は開校に祝砲上げて祝った。空には祝砲火花、校庭では人々の歓声の中に式典が挙行されていた。その頃不老川沿いの北入曾では大変な出来事がふって湧いたように起きていた。川土手の仲川家（現井戸端園）の茅葺屋根に春風のいたずらか祝砲火花の火

の粉が落下して火災になった。人々は祝賀会どころでなく、歓声とどよめきの中に進行した行事もふって湧いたこの突然の出来事に今までの感動も一瞬のうちに、春の嵐に似て消えていった事だろうか。そんな出来事の話し校庭に其の後私がここに運びこまれて植えられた。大正末期今だにおぼえているのは、校舎土台の基礎工事に使用するために校庭東すみに掘られた穴場近くに北入曾◎さんの畠から坊主頭の四人の子の肩にかつがれて来て穴場近くに植えられあれから私も大正、昭和、平成と学校行事の多い中に子供あいての毎日で年輪などがぞえているひまもなく、今日まで忘れていた、当時の校庭といっても校舎の前を西南に一周一〇〇米の小さなグラウンドが走り真中に山王様から移植した山桜の大樹が植えられていて当時の開校祝賀行事の様子を知るものとて丸太捧への古い校舎とあの移植された古木山桜のみで校庭すみの私の小さな存在など村人や子供達には忘れられていて、いつも祝賀会行事の話や花火火災の話代で校庭の山

桜の方がいつも主役的存在でもあった。その頃の私の隣りには剣道場と隣接して農業実習教室と用具室の古い校舎が背中を県道にむけて西むきに建てられていて県道沿いには寺の山門を背景にして子供達の農業の実習地が開けていた。

山門前畠から風上げ街道沿いの逃水里に水野村の広い畠地が山ぎわまで開けていた。昭和の中頃になると剣道場と隣接の農業実習教室と用具室の古い校舎はその後児童増加に伴い東側から校庭の西側隅に震災時を追想する丸太で支えられている古い校舎の角に移動され校庭のシンボル樹山桜の古木も取りのぞかれてその頃としては広い運動場が県道沿いまで拡張された。

私はこれまでとちがってこれからは広い校庭の主役としていっそう子供達を大切に見守って行きたいそんな想いから八〇余年、今では幹も太く小枝も繁り夕日が沈む頃などはいつも県道沿いの校門あたりまで私の長い木影が正門前の文具店、店先までのびていつも店先をのぞきこむようにして主に話しかけるのが天気の良い日は日課のように楽しみだった。そんな日課の平成の新しい陽の中に店の主の髪も近頃はめっきり白く白く時の流れが知られる。主の言葉にはここに店を構えて六〇余年

とか苦節への思いを一途には語られずとも、髪の色の中にも伺い知れぬ思いがしてならないような気がする平成三年春、校長室に於て相沢校長さんとPTA役員設楽さん、牛窪さん、高橋さん、豊田さん、河村さん、とあの頃拵着に坊主頭でこの私を北入曾から肩にかついでこの学校まで運んで植えてくれたあの四人の子供達の御家族、新井太郎、新井嘉一、宮野豊、宮野豊二さんによってみなさんにいつまでも大切に保存して戴くよう私の傍らに平成三年（一九九一）七月二十八日標示板が設置された。大変有難く思っている。

坊主頭の肩にかつがれて来て

校庭すみに植えて下さった

あの子等も今年九〇才

齊藤勝治先生と同級生とか

私も今年樹齢九〇歳

校庭けやき

（新井太郎）



銀杏のささやき





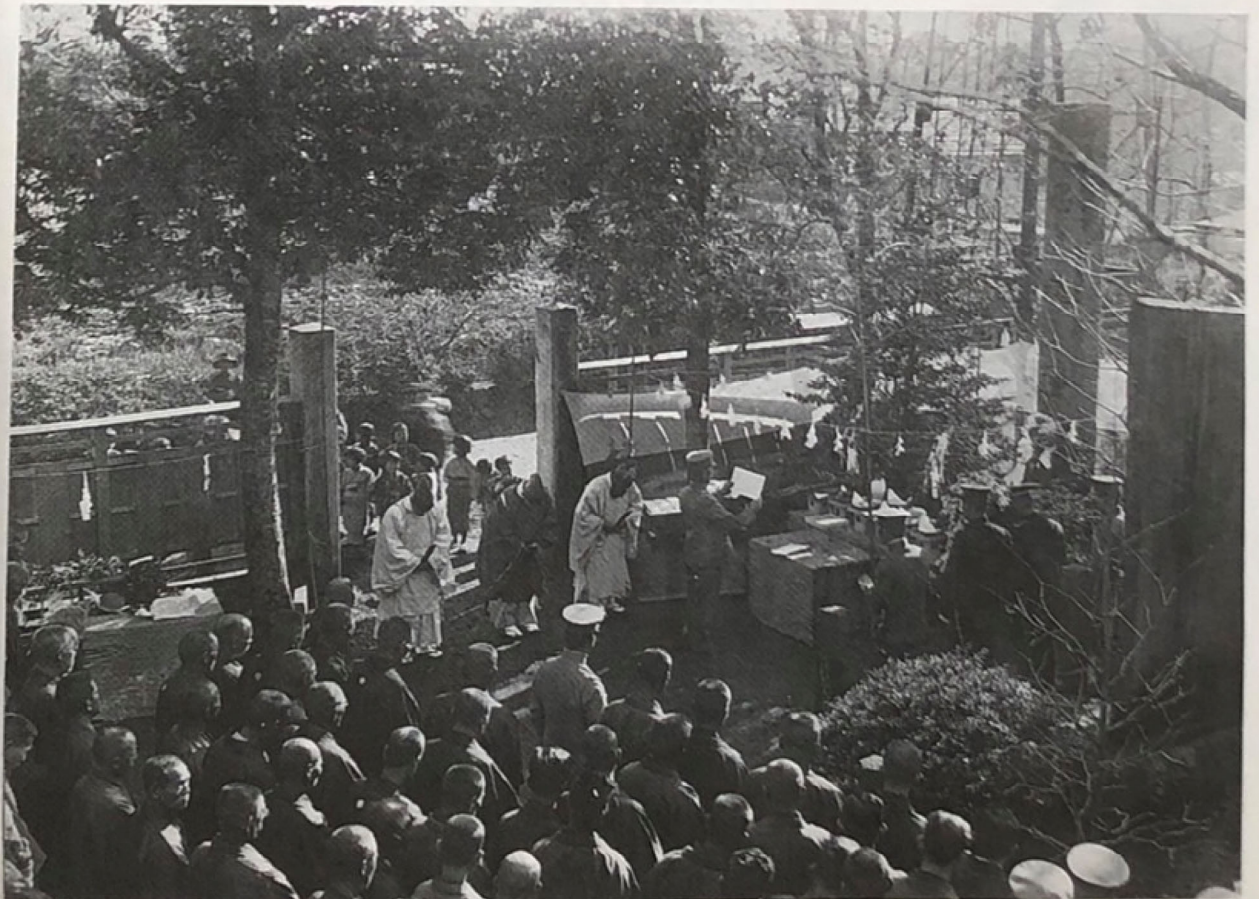
ケヤキの表示板



校庭の大けやき



ケヤキ保存の懇談会



入間村役場前の忠魂碑除幕式（大正初期）

ったり、遅かったりで、なかなか二人の数字が一致しない。これでは、時間ばかりが経ってしまうということとで、二十七・八俵までの米石を一覧表に作ってみた。

それで大雑端に俵の石数を出し、半端な俵にならない目方を計算して、世話係さんから各戸に配り、どちらかよい方で供出をしてもらった。半端は、隣近所で持ち寄って一俵を作り、残りは出荷所でまとめて一俵をつくり、その半端な残りを農協でまとめるやり方だ。

ともかくにも、こんな面倒な仕事は本来検査所でやるべきである。現在でも私はそう思っている。この方法は、三年位で中止され、再び元道りの大麦・小麦で何俵ということになった。

あれ程大騒ぎした、供出制度も今では遠い昔の物語。米が余りすぎて減反政策を進めたら、昨年の全国的な凶作で、外国から米を買う始末。麦の出荷は自由になったが、今では税金、税金が尻をたたく世の中になっってしまった。

(栗原音次)

私は校庭のけやき

私は大正九年(一九二〇)十月、この学校が入間尋常高等小学校と呼ばれ、校舎の増築が行われた時、南入曾出身の島崎寿郎校長さんの着想により記念樹として植えられました。校長さんは、教え子の中から特に元氣者だった権現堂のあらしっちゃん(新井七郎)、角ののまさちゃん(宮野政吉)、高見のそうちゃん(宮野宗次郎)、丸大のかずちゃん(新井一衛)の四人を呼び寄せて、「学校の記念樹になるような木をどこかで見付けてくれないか」と、頼みました。

その頃、村にはたくさんの同姓の家があり、名前に上に屋号を付けて呼び合うのが普通で、大人になってもその呼び名が使われていました。

北入曾の常泉寺の近くの宝泉寺に蔵王大権現様が祀ってあり、その辺りの家は必ず「権現堂の誰々さん」と呼ばれ、新井七郎さんも「権現堂のあらしっちゃん」と呼ばれていました。四つ角に家があることで宮野政吉さんは、「角のまさちゃん」と呼ばれ、宮野宗次郎さんは北入曾で一番高い所に家があるので、「高処のそうちゃん」と呼ばれていました。新井一衛さんの家は、ご先祖の新井代助爺さんが明治の初め、代助の

代を大と願ひ、丸の中に大の字を入れた、丸大という屋号で仕事をしてたので、一衛さんは誰いうとなく

「丸大のかずちゃん」と呼ばれるようになりました。

四人は喜んで、半兵衛山（現入間基地内の山林）道

沿いの汽車道を抜け、丸大の山を目指して飛んで行き
ました。

いがぐり頭の四人は、「あれはどうか。これはどう

か」と、山中をかけずり廻って探しました。そのうちに、新七ちゃんが、私を指差しながら「このけやきは
どうかなあ」と言いました。

みんなもちろん大賛成でした。さつそく私は掘り
出され、四人にかつがれて一路学校へと運ばれました。

私を見た校長さんは大喜び、増築校舎の敷地に土
を掘られた小さな穴に、私は植えられました。その時、
私は背丈が約三メートル、太さは湯のみ茶碗ぐらいで
した。辺りを見渡すと、北側にガラス窓の校舎があり、
所沢街道に平行して剣道場と農業教室があり、教室の
裏側から街道まで児童たちの農業実習地がお寺の山門
を背景に広がっていました。

私は一人ぼっちになった寂しさで、涙を流すことも
ありませんが、いつの間にか元気な子供たちの歓声に
勇気付けられました。

それに春になれば、金剛院の山門付近には見事な桜
が咲き、秋を迎えると獅子舞の美しい笛の音色が聞こ
え、私を励ましてくれました。

年を経るうちに、自分でも驚く程大きくなり、子供
たちは木登りをしたり、私を囲んで遊んだり、私は子
供の遊び相手となって、一緒に暮らす楽しい日々でし
た。時には、卒業生たちが訪れて、私に話し掛けるよ
うになりました。子供たちが病気や怪我で休むと心配
になったり、大正十二年（一九二三）の関東大地震で
は、校舎が壊れるのではないかと驚いたり、長い間に
はいろいろなことがありました。

中でも、太平洋戦争の悲惨な出来事は今でも忘れる
ことができません。

昭和二十年（一九四五）七月十日の空襲では、小久
保好蔵校長先生（川越市山田出身）が校舎の玄関を出
たところで弾に当たって亡くなられました。この大き
な悲しみは、今も心に深く焼き付いて離れません。ひ
たすら手を合わせるのみです。

私がこの地に根を下して早七十余年。島崎校長先生
を初め元気者だったあの四人も、すでに他界されまし
た。私をここまで育ててくれた歴代の先生方や地域の
皆さん、仲良しになった皆さんに感謝しながら、この

勇気付けられました。

大地にしっかりと根を張り、元気な子供たちや皆さんの幸せを永久に見守っていきます。

(新井太郎)

ケヤキ由来の標示

毎日毎日、入間小学校の児童を温かく見守っているケヤキ。校庭に立っているのが当り前のように思っていたケヤキにもたくさん思い出があり、ケヤキのつぶやきに耳を傾けてみたいものである。そして、いつまでも子供たちの心に残ることを願っている。

標示板の設置に当たって、校長室でケヤキ保存のための相談会が開かれた。そこで、この地にケヤキの幼木を運び、植えた四名の少年たちの親族(新井太郎・新井嘉一・宮野豊・宮野豊二)と相沢校長さん、PTA役員(設楽吉代・牛窪由恵・高橋澄子・豊田美保)により平成三年(一九九一)七月二十八日、この大樹の傍らに標示板が設置された。

(新井太郎)



銀杏のさくら

印刷

平成六年十二月二二日

発行

平成六年十二月二五日

会長

小川熊雄

住所

[Redacted]

電話

[Redacted]

代表者

新井太郎

住所

[Redacted]

電話

[Redacted]

印刷所

岡野印刷

住所

狭山市上広瀬二〇四六

電話

〇四二九一五二一―二二四五